

SEEDS

No.215 夏号
2012 /

おしえて! 知床のクジラの素顔

特集

脅威となつたエゾシカ
との攻防 — 活動レポート

スタッフは見た! 第2回
ボニョ改め、新種「タマコンニャクウオ」

シレカジ
知床財団 購買部 第1回

知床・人・インタビュー 第13回
羅臼の観光船船長 長谷川正人さん

知床財団 用語辞典 第2回



知床財団

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

■写真 羅臼の山々にむかって海面に姿を現したシャチ。噴気孔から吹き出された呼気が朝陽に映える。(提供:知床ネイチャークルーズ)



葛西真輔 保護管理研究係主任

ヒグマ対策をはじめ、知床財団の野生動物対策の最前線でチームを引っ張る。学生時代はツキノワグマの研究に没頭した。休日には釣りやハンティングを好んでいたしなむ。



脅威となったエゾシカ との攻防

| 文 - 葛西真輔 保護管理研究係 |

写真左：エゾシカに樹皮を食べられた知床岬のミズナラの森。中：樹皮を食べられないように保護ネットを巻くが一重ではすぐ破られてしまうので何重にも巻く。右：キハダの樹皮を食べるエゾシカ。ニレ科の木やイチイなどを好んで食べる。

光シーズンを迎えた知床。あちこちで観光客が道路わきで草を食べるエゾシカの写真を撮っています。知床に来れば必ず出会える人気者のエゾシカ。1970年代まではシカを見るごとも少ないほどでしたが1980年代以降、急激に増えはじめ、知床の生態系を脅かす存在になっています。越冬地のひとつとなるいる知床岬では、古くからシカの越冬数調査が行われており、1986年の53頭から最も多かつた1998年には592頭と12年間で約10倍に増えました。

シカが増加すると、シカの好み（食べる）植物ばかりが少なくなり、植物を取り巻く知床の生態系にさまざまな影響を与えてします。シカの増減は過去にも繰り返されてきた可能性がありますが、長い間知床を含む広範囲で自然環境に手を加えて人間が活動してきたことが一因でもあると考えられています。シカが増えすぎたままの状態が続ければ、以前の様々な植物が見られた状態にはなかなか戻らない可能性があります。そ

の好む植物を餌とし、また隠れ家とする昆虫や小動物も私たちの見えないところで影響を受けています。可能性があります。

皆さんの中には、増えすぎたといふ理由だけでシカの命を奪うことに疑問を持つ方もいるかもしれません。私もシカの捕獲作業を行っていると、「これほどたくさんシカを殺していいのか?」といふたまれない気持ちになることがあります。しかし、知床の生態系全体を保全していくためには、このままだ手をこまねいでいる訳にはいかないのです。

シカが増え過ぎると、シカの好み（食べる）植物ばかりが少なくなり、植物を取り巻く知床の生態系にさまざまな影響を与えてします。シカの増減は過去にも繰り返されてきた可能性がありますが、長い間知床を含む広範囲で自然環境に手を加えて人間が活動してきたことが一因でもあると考えられています。シカが増えすぎたままの状態が続ければ、以前の様々な植物が見られた状態にはなかなか戻らない可能性があります。そ

のため、知床の世界遺産地域の中で2007年からシカを捕獲して個体数を管理する取り組み（環境省事業）が始まっています。遺産地域の中に拠点がある私たちも、捕獲や調査など様々な取り組みに関わっています。

なぜ捕獲するのか

シカ捕獲の一一番大きな目的は、自然植生をシカが増える前の状態に戻すことです。初夏、シカが登れない崖の上には、シカが好むユリの仲間のエツスカシユリやエジカンヅクなど鮮やかな花がたくさん咲きます。しかし、シカの餌場となっているフレベの滝遊歩道や知床五湖周辺の草原にユリの仲間の花は見られず、シカの食べないワラビやハンゴンソウで覆い尽くされています。このように、シカの植生への影響はわたしたちの身近なところでも感じることができます。シカの好む植物が見られなくなり、シカの好みない植物ばかりが目につくようになってしまっています。

シカが増加して影響を受けるのは植物だけではありません。シカ

が始まり5年、道路のない知床岬では船の行く手を流れに阻まれ、やむを得ず引き返すことになったり、ようやくたどりついても雪解けが早い年にはシカがいなかつたりと、手探りの連続でした。それでも、この試行錯誤を通して知床で実際に効果を上げられる捕獲手法を確立してきました。

昨冬、知床岬ではハンターが待つ場所へスムーズに追い込むため全長3キロの柵を作られ、一度に

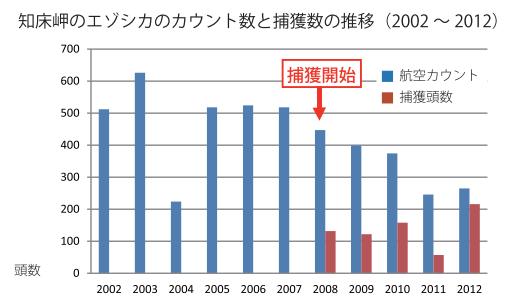
5年間の成果

世界遺産地域の中でシカの捕獲が世界遺産地域の中でシカの捕獲がはじまり5年、道路のない知床岬では船の行く手を流れに阻まれ、やむを得ず引き返すことになったり、ようやくたどりついても雪解けが早い年にはシカがいなかつたりと、手探りの連続でした。それでも、この試行錯誤を通して知床で実際に効果を上げられる捕獲手法を確立してきました。

昨冬、知床岬ではハンターが待つ場所へスムーズに追い込むため全長3キロの柵を作られ、一度に

捕獲だけではありません

シカを捕獲するだけでなく、まだわかつていないシカの生態解明やモニタリングにも並行して取り組んでいます。捕獲事業によって生息数全体が変化しているのかどうかはもちろん、植生の変化など、エゾシカについてだけでなく生態系全体を見据えた調査を行っています。



上：知床岬で植生回復調査のためシカが入れないよう囲った柵。中には花畠が広がるが、柵の外には花は見渡す限りない。



上：ワラビとハンゴンソウばかりが広がるフレベの滝遊歩道周辺。右：倒れた木は枝先まで樹皮をほとんど全て食べられてしまう。



